

# 国史跡 佐土原城跡



佐土原城は宮崎市佐土原町上田島に所在しており、標高約七〇メートルの丘陵に造られた山城部と、その麓に広がる平城部で構成されています。二十万平方メートルという広大な面積を誇るその姿は大城郭と言わふさわしい堂々たる城で、江戸時代の初期には南九州で唯一の天守がありました。

歴代の城主には宮崎の歴史上最大の勢力圏「伊東四十八城」を築き上げた伊東義祐や豊臣秀吉が恐れられた戦上手ともいわれる島津家久、関ヶ原の戦いで討ち死にした島津豊久などがおり、戦国時代の日向国の中心でした。

宮崎市教育委員会

## 渋谷家・郡司家の発掘調査

現在、城の駅 佐土原には館が建っている場所は、江戸時代には佐土原藩家老の渋谷氏と騎馬格の郡司氏の屋敷があり、平成22年から23年にかけて発掘調査が実施されました。発掘調査では当時の生活に使われた多くの道具と共に建物や井戸、厩(トイレ)などが見つかりました。

佐土原城跡第6次調査空中写真

- 渋谷氏の建物
- 郡司氏の建物
- 井戸
- 池
- 厩(トイレ)
- 屋敷を区画する溝

■厩(トイレ)  
地面に穴を掘り、便槽として木製の桶を設置する構造でした。

■井戸  
発掘調査の結果、井戸は板を円形に組んだ状態で発見されました。

■溝の跡から出土した佐土原土人形

渋谷家、郡司家復元図

※発掘調査の結果からこのようなイラストを作成することができました。



### ■宮崎市佐土原歴史資料館 鶴松館

佐土原城内にある「鶴松館」では、佐土原城と佐土原の歴史に関する様々な資料が展示されています。

○電話 0985-74-1518  
○開館日 年末年始を除く土日・祝日のみ(但し5/15~6/14は特別開館につき休館日なし)  
○開館時間 9:00 ~ 16:30

発行 宮崎市教育委員会文化財課  
令和4年7月

○電話 0985-85-1178  
○E-mail 45bunsin@city.miyazaki.miyazaki.jp

## 佐土原城にまつわる主なできごと

■佐土原城は室町時代に伊東氏分家の田嶋休祐によって築かれたと言われていました。しかし、勢力拡大を目指す伊東家によって田嶋氏は乗っ取られ、佐土原城は伊東家のものとなりました。

■戦国時代、日向国の大半を支配することに成功し、伊東家の全盛時代を築いた義祐は佐土原城を居城としました。義祐によって京風の町に整備された佐土原城下は大いにぎわったと言われていました。しかし大大名としておごり、政治をかえりみなくなった義祐は薩摩・大隅を本拠とする島津義久に大敗し、佐土原城を捨てて家族とわずかな家来とともに豊後に逃げることになってしまいました。

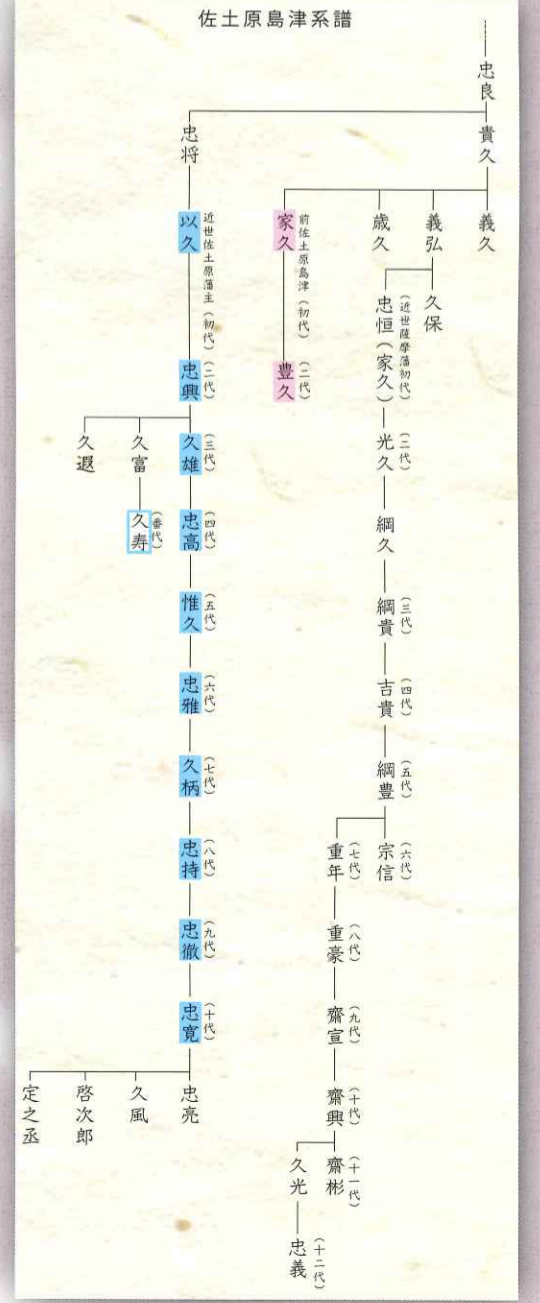
■島津義久は弟の家久を佐土原城に入れ、日向国の支配にあたらせました。名将として知られた家久は数々の合戦で活躍し、島津家は九州の大半を支配するまでになりました。しかし天下統一を目指す豊臣秀吉が大軍を率いて九州に攻め入り、敗れた島津家は秀吉に降伏しました。家久は降伏直後に突然病死したため、毒殺されたのではないとも言われています。しかし家久の子豊久が秀吉から直々に佐土原領主に任命され、佐土原城主となりました。

■島津豊久は朝鮮出兵などで活躍しましたが、関ヶ原の戦いで島津家の大将義弘を守って討ち死にしました。この時、豊久不在のすきをついて清武城主稲津掃部助率いる伊東家の軍勢が佐土原に攻め込みましたが、島津勢によって撃退されるという事件も起きました(稲津騒動)。

■関ヶ原の戦いで徳川家康に敗れた島津家は佐土原を没収されてしまいました。しかし近世薩摩藩祖島津忠恒(のちに家久と改名)と島津一族の有力者である以久(忠恒の父のいとこ)は佐土原獲得のため積極的に運動しました。その結果家康は以久に佐土原を与え、ここに三万石の近世佐土原藩が成立しました。

■以久のあとを継いだ2代藩主忠興は慶長16、17年(1611、1612)、佐土原城の山頂部に天守などを建てました。しかし寛永2(1625)年、忠興は佐土原城を麓に移し、山城としての佐土原城は破却されました。城を麓に移したのは「伊東義祐が豊後に逃げる時に(山城の)佐土原城にのろいをかけ、それを知った以久と忠興が不吉と考えた」ためとも言われていますが、実際は戦乱の世が終わり、戦闘のためにつくられた山城を維持する必要がなくなったためと考えられます。戦国時代日向国の中心であった山城佐土原城はその役割を終え、動乱の歴史を秘めたその姿を今に伝えています。

■現在鶴松館が建っている場所は江戸時代に佐土原城があった場所ですが、実はその背後の山全体が、室町時代から江戸時代のはじめ頃までの佐土原城でした。このような城を山城と言ひ、山の地形をうまく生かし、城を守るための工夫があちこちに施されています。現在見学ルートとなっている大手道、中の道は、ほぼ当時のルートがそのままに残っています。



## 『天正年中佐土原城図』

(日南市教育委員会蔵)

この古絵図は、江戸時代に戦国時代(天正年間)頃の佐土原城を描いたものだとされていますが、本丸に描かれている天守は、天正年間には存在していなかったと考えられています。

なお、『旧事集書』には「武重(二階建て)天守」と書かれています。この絵図には三重天守が描かれています。



### 天守の調査

山城部の頂上の本丸には天守がそびえ立っていました。佐土原城は南九州で実際に天守が建っていた唯一の城であり、日本最南端の天守を持つ城でした。平成7年度と8年度の発掘調査でその存在が確認され、平成29年度の調査では天守の柱を支える礎石が発見されました。全身金箔貼りと考えられる鯨瓦も出土しています。石垣や瓦、古文書の分析から、江戸時代はじめ頃の慶長16・17(1611・1612)年、佐土原藩2代藩主島津忠興によって建てられた可能性が高いと考えられています。これからの発掘調査でさらにその詳細が明らかとなることが期待されています。



発掘調査で出土した金箔鯨瓦



発掘調査で出土した天守台の礎石と瓦(平成29年度調査)

# 佐土原城跡を攻めてみよ



## ①天守台 (てんしゅだい)

■平成8年度の発掘調査で、南九州の城では唯一となる天守の存在が確認された。  
 ■鯨瓦(しゃちがわら ※いわゆる「しゃちほこ」)が出土した。  
 ■『旧事集書』には「武重(にじゅう ※二階建て)天守」と書かれているが、江戸時代につくられたと考えられる絵図「天正年中佐土原城図」には三重天守が描かれている。



## ②本丸 (ほんまる)

■主郭(しゅかく)。城の中心部。江戸時代前期の文書『御家記』に2代藩主忠興が天守、櫓、塀、門を建てたと記されている。

## ③虎口 (こぐち) -1

■本丸の入口である柵形虎口(ますがたこぐち)。L字状に折れ曲がり、進入してきた敵が直進できないように工夫されている。

## ④南の城

■2代藩主忠興(ただおき)はここに御殿(ごてん)を建てた。

## ⑤島津家久・豊久の墓

■天正17年(1589)に創建され島津家久・豊久の菩提寺として位置づけられた天昌寺跡に、家久・豊久の一族をはじめ、関ヶ原の戦いで戦死した家臣たちの墓塔が立ち並んでいる。



## ⑫高月院 (こうげついん)

■慶長17年(1612)に2代藩主忠興によって創建。藩主の菩提寺として保護を受け、初代藩主島津以久以後の藩主や正室、側室などの墓が立ち並んでいる。



## ⑪鶴松館 (かくしょうかん)

■現在鶴松館の建っている場所が山城破却後の佐土原城。  
 ■佐土原城の解説や出土遺物が展示されている。



## ⑩中の道 (なかのみち)

■城の中央部にある登城路。谷の奥に造られた虎口の崖面には、門を建てたほぞ穴が残る。



## 虎口 (こぐち) の崖面



城の駅  
佐土原いろは館

## ⑨大手道 (おおてみち)

■両側にそびえたガケの下を延々とのぼる大手道(城の最も主要な道)。尾根を縦に断ち割ってつくられた非常に珍しい構造。



## ⑧堀切 (ほりきり)

■北東にのびる尾根上を攻めてきた敵をくい止めるためのもの。

## ⑦松尾丸 (まつおまる)

■江戸時代の終わりに書かれた文書『旧事集書』に「松尾丸には櫓(やぐら)が建っていて、海からも見えたそうだと書かれている。

## ⑥虎口 (こぐち) -4

■クランク状に作られた道。この道から進入してきた敵に対して有利に戦えるように、わざと折り曲げている。